



☆ 11月8日(金)13日(水) 八幡山でのマラソン大会で子ども達が力走

秋休み明けより練習を重ねてきた校内マラソン大会を11月8日(金)に1～3年生、13日(水)に4～6年生が実施し、秋晴れの下、紅葉に色づく八幡山を子ども達が駆け抜けました。昨年度は、コロナ禍明けの行事設定の中で春実施としましたが、今年度は1年生も含め全学年が参加する全校行事として秋の実施となりました。また、校庭や校舎周辺の道路を使うコース設定も検討しましたが、50年近く続いてきた伝統行事を続けて欲しいという保護者の要望もあり本校のシンボルでもある八幡山を利用したコースでの実施となりました。

当日は、子ども達が自分で設定したタイムを少しでも更新することを目標に学年ごとに力強い走りが見られました。思い切りスタートから飛び出し、そのまま走り切ろうとする1年生から、コースを知り尽くした上でペース配分を考え、ここぞという場所でラストスパートを駆ける6年生まで、自分に負けまいと走り抜けた子ども達の姿はとてたくましく思えました。走り終えて順位は付いたものの、それぞれの顔に走り終えた満足感と目標をクリアした達成感がにじみ出ていました。最後に、平日ながら多くの保護者の方々に見学、応援していただいたことも子ども達の力走のエネルギーになったことと思います。子ども達への声援、本当にありがとうございました。



2年記録更新めざし緊張のスタート

八幡山マラソンに向けて大休みや体育の授業で練習を積み重ねてきました。自分に負けず、ペースを守り、走り続けることで順位やタイムなどの目標をクリアできたことが大きな達成感・満足感につながりました。体だけでなく、心も鍛えられました！



自分のペースで駆け上る4年生



小学校最初のマラソン挑戦の1年生



集団でペースを引っ張り合う5年生



長い登りで競い合い差を詰める6年

八幡山マラソンは、1973年(昭和48年)9月、小林健寿郎校長の発案で八幡山に親しんでもらうこと、児童の体力を付けることをねらって始まりました。当時の教育振興会長増永迪男氏の協力を得ながら登山道(冒険コース)を造成すると共に、舗装路を利用してマラソンを始めたという記録が残っています。それから毎月10日を「登山マラソンの日」と決め、雪の日も長靴を履いて走ったそうです。その伝統は平成20年代まで続き、春から秋は毎日大休みに業間マラソンとして練習を積み重ね、春秋の年2回マラソン大会を行っていました。そのおかげで本校児童の体力は著しく向上し、県400mリレーの新記録を更新したり、中学校でも部活動でも優秀な成績を残したりと、体力向上の基盤となったとも言われています。今後もマラソンだけでなく環境教育等の舞台として八幡山を活用していきたいと考えています。【参考資料：平成23年11月発行広報みのり第248号】

☆ 11月2日(土) 県小学生読書感想文コンクール表彰式で学校賞受賞

「この一行に逢いにきた」をスローガンに10月27日から11月9日まで読書週間として、本に親しむ活動に取り組んできました。秋休みには親子読書にもご協力いただきましたが、朝の活動では静かに読書に親しむ子ども達の姿が見られ、うれしく思っています。それらの取組が功を奏したのか、県小学生読書感想文コンクールでは6年生2名が県知事賞と優秀賞、3年生2名が入選に入賞しました。また、本校が学校賞として表彰を受けました。学校賞副賞として、21冊の最新刊図書が副賞として寄贈され、図書室で貸出できるように準備を進めています。



6年生が県知事賞として最優秀賞受賞

学年入賞者4名と学校賞受賞の校長

学校賞副賞として贈呈された図書一式

☆ 11月1日(金)・6日(水) 3年社会科「防災体験学習」市防災センター

3年生が社会科「くらしを守る」の学習の一環として市防災センターで防災体験学習に出かけました。防災センターでは、消防署総合司令室での消防・救急の通報対応を見学したり、起震装置による地震体験などで自然災害から身を守る対応方法に学んだりしました。最後には、東消防署での消防車や救急車の見学もあり、充実した校外学習となりました。今年1月には能登半島地震もあり、福井でも大きな揺れを体感しましたが、いつ起こるかわからない災害に対しても普段からの備えが大切だということを実感した子ども達でした。



屋外で遭遇した地震への対応方法

福井を襲った自然災害についても学習

東消防署での消防車・救急車も見学

☆ 11月12日(火) 就学時健康診断で新1年生入学に向けての準備

11月を迎え、令和7年度入学予定の園児を迎え、就学時健康診断と保護者への入学説明会を行いました。4月からの入学を控え、最初は緊張気味だった園児も順番に回るに従い楽しげな表情になっていきました。また保護者対象に「小学校入学、環境の変化に寄り添うコツ教えます」と題した市社会教育指導員による親学講座も開催され、入学前の心得について話がありました。なお、新年度の入学児童は約60名で学年2学級編制となる予定です。



受付でお家の人としばらく別々に

身長体重を計り、次の場所へ班移動

保護者対象の親学講座で心の準備も

心のスイッチ

東井 義雄

人間の目は、ふしぎな目

ちっともえらくならない人がいる。

見ようという心がなかったら、

毎日、どんどんえらくなっていく人もいる。

見ていても見えない。

今までみんなから、

人間の耳は、ふしぎな耳、

つまらない子だと思われていた子でも、

聞こうという心がなかったら、

心にスイッチが入ると、急にすばらしい子になる。

聞いていても聞こえない。

ほんとうにそうだ、と、

心のスイッチが、

腹の底まで聞く人もいる。

人間をつまらなくもし、すばらしくもしていくんだ。

東井義雄著作集 6(明治教育図書)より

電灯のスイッチが、

※ 原文下線部「いる」を「ある」と表記改変

家の中を明るくもし、暗くもするように。

